

わが

便利な田舎を目指して 健幸と個性が創る 活力と希望あふれる故郷 伊達市

さらに魅力あるまちへと
成長を続ける伊達市へ

福島県中通りの北部に位置する伊達市は、東に国の史跡・名勝に指定されている名峰「りょうぜん霊山」、西に雄大な吾妻の峰々を日々仰ぎ見る自然に恵まれたところで。盆地特有の寒暖の差の大きい気候は果



国の史跡・名勝、県立自然公園「りょうぜん霊山」

物の甘さが増し、桃をはじめめとして、イチゴ、サクランボ、ブドウ、特産の干し柿である「あんぼ柿」など、四季を通じてさまざまなおいしい果物を味わうことが

できます。気候を生かした野菜の生産も盛んであり、全国有数のきゅうりの産地で、他にもニラ、春菊などが生産されています。また、歴史をひもときますと、

戦国大名伊達氏発祥の地であり、南北朝時代の武将・北畠顕家が陸奥の国府を置いたなどの歴史を持つたまちです。

本市は、平成18年1月に伊達町、梁川町、保原町、やながわ霊山町および月館町が合併して誕生しました。「伊達市第2次総合計画(後期基本計画)」に掲げた将来都市像「健幸と個性が創る 活力と希望あふれる故郷 伊達市」の実現に向け、市民参画を基本に人と人のつながりや歴史・文化・産業・自然が織りなす多彩な地域資源を大切に磨き上げ、若者をはじめとするあらゆる世代が住んでみたい、

住んでよかったと思える魅力あるまちづくりを進めています。

切れ目のない子育て支援から健康で幸せに暮らせるまち

平成29年度から、育児支援の先進国である北欧フィンランドの取り組みを参考にした伊達市版ネットワーク(フィンランド語で「アドバイスの場」の意味)事業に取り組みしております。伊達市子育て世代包括支援センター「にこにこ」を拠点に、親子を担当するネウボラ保健師、助産師を中心として「寄り添う支援」「保健と保育の一体化」を二つの柱とし、妊娠期から就学前までの子育てを切れ目なくサポートしています。また、認定こども園の整備促進、子どもの体力低下に対応するための全天候型の屋内こども遊び場、就学後の



ネウボラ保健師による育児指導

サポート施設として公設の放課後児童クラブの設置など、安心して子育てができる環境を整えています。

さらに、市民一人一人が健康で幸せに暮らせる地域社会の実現を目指して、住民主体で身近な集会所などで運動を楽しむ「元気づくり会」が、市内126会場で実施されています。週2回、90分の活動(準備運動→筋トレ→球技やリズム体操→整理運動)を自発的に楽しみながら、参加者の心身の健康を確認・維持するとともに、地

域コミュニティとして大切な「通いの場」となっています。

人、モノの流れが変わる 東北中央自動車道開通

令和3年4月24日、東北中央自動車道「相馬福島道路」が全線開通しました。東北中央自動車道は、太平洋に面した相馬市を起点に、伊達市、福島市、山形県米沢市を経て東北の中央を縦貫し、秋田県横手市に至る総延長約270kmの高規格幹線道路です。

地域産業の振興や交流人口の拡大が図られるとともに、災害時における救護・救助のための重要道路として、さらに、医療分野においては、患者に負担の少ない迅速で安定した救急搬送道路として、未来につながる「希望の道」である



東北中央自動車道（伊達中央ICから伊達桑折IC間）



高子駅北住宅団地

ると考えています。その効果は、本市のみならず、福島県や南東北地方の発展に大きく寄与するものであり、その速達性や定時性、利便性を最大限に生かし、積極的な事業展開を図るとともに、広域的な連携による地域活性化を推進していきます。

若い世代の移住・定住の実現に向けて

本市は、若い世代の移住・定住を重点施策にしています。そのためには働く場所、そして住む場所が必要です。また、何よりも楽しむ場所も必要です。そこで、働く場所の確保として、相馬福島道路「伊達中央IC」から1kmの場所に工業団地（14ha）の造成を行っています。住む場所としては、通勤・通学に便利な阿武隈急行高子駅の北側に住宅団地を造成しています。そして、楽しむ場所として「伊達桑折IC」付近へ大型商業施設の出店が計画されています。

便利な田舎を目指して

本年は、伊達市誕生から15年、東日本大震災から10年の節目に当たります。令和元年東日本台風な

ど自然災害に見舞われながらも、着実に歩みを進めてきました。少子高齢化など本市を取り巻く状況は厳しさを増しており、また、新型コロナウイルス感染症による新たな課題も生じています。そのような中で、コロナ後は「地方の時代」であると思っています。本市は、生活拠点が分散しているという地理的条件にありながら

プロフィール

- ◆ 面積 265.1km²
- ◆ 人口 5万8788人
- ◆ 世帯数 2万2996世帯

〔将来都市像〕 健全と個性が創る活力と希望あふれる故郷 伊達市

〔まちの特徴〕 四季を通じたおいしい果物や野菜にあふれ、歴史と文化、産業と自然が調和した魅力あふれるまち

〔市町村合併〕 平成18年1月1日に伊達市、梁川町、保原町、霊山町、月舘町が合併して誕生

〔特産品〕 初夏のサクランボに始まり、



伊達市長
須田博行

も、高速交通網や鉄道網が整備された「便利な田舎」でありますし、また、そのことを強調していきたいと考えています。豊かな自然の中で安心して暮らし、住んで良かったと思えるまちに、そして、田舎であることを強みに誇りに思える伊達市を目指し、市民と一緒にまちづくりを進めてまいります。



桃、リンゴ、ブドウ、冬はイチゴ、あんぽ柿と四季を通じて生産される果物、野菜（きゅうり、ニラ、春菊）
〔観光〕 国の史跡・名勝「霊山」、霊山こどもの村、保原総合公園パークゴルフ場、道の駅「伊達の郷りょうぜん」
〔イベント〕 伊達もの里マラソン大会、三浦弥平杯ロードレース大会、つこ引き祭り、霊山太鼓まつり、箱崎の獅子舞

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

「地域創生」木更津イノベーション

未来につながるまちづくり
「オーガニックシティきさらづ」

木更津市は、南房総・東京湾岸に位置し、港町として栄えた歴史、文化のあるまちです。東京湾アクアラインのもとには盤洲干潟が広がり、内陸部には万葉集にも登場する緑豊かな上総丘陵が

ります。現在では、広域的な幹線道路網の充実により交通便利性が向上し、大型商業施設や優良企業の集積が進み、定住・交流人口も増加を続けています。

このまちを、責任を持って次の世代に継承していくために、本市では、有機的なつながりを大切に、地域、社会、環境等に配慮

し、主体的に行動しようとする考え方を「オーガニック」と定義し、

の創出

新たな価値創造に向けた「オーガニックブランド」

また、オーガニックなまちづくりを推進することにより、SDGs達成にも貢献してまいります。

市内公立小・中学校の学校給食米の有機化を推進しています。全国で多様なブランド米が流通する中、基幹作物である米の付加価値向上を図り、「きさらづ学校給食米」としてのブランド力を高めて



東京湾アクアラインから木更津を望む



多くの人でにぎわうオーガニックシティフェスティバル



オーガニックシティきさらづロゴマーク

「ORGANIC CITY PROJECT」をスタートさせ、自然に寄り添い、学び、経済が循環する自立した共生社会を目指して、市民、企業、行政が一体となって取り組んでいます。この「オーガニックなまちづくり」の考え方を、見て・感じて・楽しみながら学ぶことのできる体験型・参加型のイベント「オーガニックシティフェスティバル」を毎年開催し、多くの方にご来場いただいています。



有機米生産者の皆さん



電子地域通貨「アクアコイン」

いくため、そして何よりも未来を担う子どもたちに安全・安心・おいしい学校給食を提供するため、生産者や関係機関の協力を得て、令和元年度から本格的にスタートしました。

また、本市の特産品であるブルーベリーをはじめ、レンコン、パッションフルーツの有機JAS認証の取得を支援するとともに、千葉県では初となる飲食店のオーガニックレストランJASの取得を支援し、独自の「オーガニックブランド」として、ふるさと納税への活用をはじめ、新たな価値創造に期待を寄せています。

今後、さらに「オーガニックブランド」の創出を官民連携して強力に推し進め、農業振興、地産地消や食育の推進、環境保全など、まちの持続力を高める取り組みを行っています。

木更津発 地域通貨による 地方創生

市外の大型商業施設やインターネットショッピングへの消費の

流出を背景として市内消費が落ち込む中、本市では、地元商店などでの消費活動を促進し、地域の中で資金を循環させる仕組みとして、「電子地域通貨『アクアコイン』」を導入し、普及促進を図っています。また、少子高齢化が進行する中、地域における介護や防災、健康などの意識を高めるきっかけとして、ボランティア活動や市民活動などへ参加した市民に対し、アクアコインシステムを活用した行政ポイント（らづポイント）を付与し、地域コミュニティの活性化に取り組んでいます。令和3年6月30日現在、加盟店数697店、インストアール件数1万7082件、利用額6億920万円に達しています。

市制施行80周年を通過点に 輝きつづけるまちへ

本市は、令和4年11月に市制施行80周年を迎えます。これまでの先人の英知や努力の下に発展を続け、そして今、さらなる飛躍を遂げようとしています。市制施行80周年を100周年も見据えた大きな節目と捉え、市民のまちへの愛着や誇りを一層高めるための取り

組みを行い、未来に継承していきます。

このためには、本市の有する地域特性や地域資源などを最大限に生かし、交流人口や移住・定住人口の増加につなげ、持続可能なまちづくりを推進することが重要です。新型コロナウイルス感染症の影響により、都会を離れて自然豊かな地方に移り住む「コロナ移住」

プロフィール

- ◆ 面積 138.95km²
- ◆ 人口 13万5884人
- ◆ 世帯数 6万3899世帯

〔将来都市像〕魅力あふれる 創造都市
きさらづ、東京湾岸の人とまちを結ぶ躍動するまちへ

〔まちの特徴〕東京湾最大の自然干潟や上総丘陵などの豊かな自然環境に囲まれ、港を中心に繁栄してきた歴史あるまち

〔特産品〕米、レタス、ミニトマト、トウモロコシ、のり、ブルーベリー、梨、



木更津市長
渡辺芳邦



パッションフルーツ、アサリ
〔観光〕恋人の聖地・中の島大橋、道の駅「木更津うまかつの里」、いっせんぼく、木更津市郷土博物館 金のすず、きみさらずタワー、KURUKU FIELDS、潮干狩り、ブルーベリー園、海ほたるパークエリア
〔イベント〕木更津港まつり（やさしいもっさい踊り大会・花火大会）、木更津トライアスロン大会、KISARAZU PARKBAY FESTIVAL、KISARAZU ORGANIC CITY FESTIVAL

への関心が高まっています。都心に近接しながらも、里山・里海に触れる多様なライフスタイルがかなう本市の魅力を引き出し、未来に向けた発想の転換によるイノベーション（変革）を意識しながら、市民のチャレンジを育み、人・もの・文化が循環する自立した地域づくり「地域創生」を進めてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「富士山とともに 輝く未来を 拓くまち」の「ふじ」の実現を目指して

富士山麓の豊かな自然に
恵まれた「ものづくり」のまち

富士市は、北に世界遺産・富士山を仰ぎ、南に駿河湾を望む、自然豊かで風光明媚な環境にあります。古くは東海道の宿場町として栄え、現在では、東海道新幹線や東名・新東名高速道路など、東西を結ぶ交通の要衝に位置し、さらに、国際貿易港として、地域産業を支える田子の浦港を有する静岡県東部の中核都市です。

また、温暖な気候と富士山麓の豊富な地下水に恵まれ、地場産業として紙・パルプ産業が

発展し、トイレットペーパーの生産量は全国の約3分の1を占めるな



「富士山と茶畑」の代表的景観として各種メディアで紹介される「大淵笹場」

ど、国内有数の「紙のまち」として知られています。さらに、輸送機械、化学工業、食料品など多様な産業が集積した「ものづくり」が盛んなまちです。

「いただき」を目指して、
チャレンジする皆さんを応援

本市のブランドメッセージ「いただきへの、はじまり 富士市」は、海拔0mから富士山までを地域に持つ日本で唯一のまちという、オンラインワンの魅力を表しています。

自分なりの「いただき」を目指して、「はじまり」を大切に、一歩ずつ歩んでいこうという思いも込められています。「いただき」を目指して一歩を踏み出す皆さんを応援しており、その一例を紹介します。まず、さまざまな理由で働き

らさを抱える方への就労支援「ユニバーサル就労」に取り組んでいます。この基本理念は、働きたくても働くことができない状態にある全ての人が、その個性や意欲に応じて能力を発揮し、社会を構成する一員として社会経済活動に参加することです。この取り組みでは、働きづらさを抱える方を支援するだけでなく、趣旨に賛同する企業を協力企業として登録し、業務の切り出しやマッチングを行うなど、人と企業の双方を適切に支援することで、就労につなげていきます。

次に、全国的に煎茶の需要が伸び悩む中、茶業の活性化を図るため、「富士のほうじ茶ブランド化事業」に取り組んでいます。本市には、自園自製自販の茶農家が多いことから、若手生産者と協働で

「日本一おいしいほうじ茶」作りにチャレンジしています。本年6月には、「富士市ほうじ茶宣言」と銘打ち、「ほうじ茶の香りがするまち」を目指し、富士のお茶の認知度向上や販路拡大などに力を注いでいます。

自転車を活用した 地域活性化の取り組み

静岡県東部地域は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における自転車競技の開催会場であり、そのレガシーとして、サイクルツーリズムの推進などが期



レバンテフジ静岡と連携協定を締結



循環型社会形成に向けた拠点として、令和2年10月に供用を開始した「新環境クリーンセンター」

「富士市テレワーク推進ロードマップ」を作成し、市内事業所へのテレワーク導入促進や首都圏などからのテレワーク実施企業の誘致、テレワークの受け入れなどに取り組んでいます。

待されています。また、プロサイクリングチーム「レバンテフジ静岡」が、本市を拠点に活動しており、自転車に関するさまざまな活動にご協力をいただいています。

現在、レンタサイクルや休憩スペースを備えたサイクルステーションの設置を進めているほか、市内でのプロカテゴリーレースの開催を目指すなど、自転車を活用した地域活性化に取り組んでいます。

テレワーク先進都市の実現を目指して

本市は、急速に進化するデジタル技術を最大限活用し、さまざまな社会的課題の解決を図るため、令和2年8月に「富士市デジタル変革宣言」を行いました。その主な取り組みの一つとして、「テレワーク先進都市の実現」を目指しています。本年には「富士市テレワーク推進ロードマップ」を作成し、市内事業所へのテレワーク導入促進や首都圏などからのテレワーク実施企業の誘致、テレワークの受け入れなどに取り組んでいます。

SDGsの達成と輝く未来を切り拓くために

令和2年7月、本市は「SDGs未来都市」に選定されました。SDGsの達成年限である2030年のあるべき姿を「富士山とともに輝く未来を拓くまち ふじ」として、一人一人が自らの希望を実現し、生き生きと輝けるまちを築くとともに、富士山の恵みを次世代に継承しながら、持続可能な発展の実現を目指します。



過去3度被災地に派遣したほか、イベントでも活用している「トイレトレーラー」

本市では、植物由来の新素材セルロースナノファイバー（CNF）の実用化推進や、前述のユニバーサル就労支援、災害派遣トイレネットワークプロジェクト「みんな元気になるトイレ」における全国初のトイレトレーラー導入など、SDGsの達成につながる先導的な取り組みを進めています。

また、ごみ焼却により発電を行う工場棟のほか、環境学習が可能な循環啓発棟などを併設した「新環境クリーンセンター」の供用を開始しています。

このほか、紙・パルプ産業が積極的にバイオマス発電を導入した結果、発電容量日本一を誇り、家庭用太陽光発電なども含め、域内消費電力の49%相当の再生可能エネルギーを生み出しています。今後も積極的に取り組んでいます。

プロフィール

- ◆ 面積 244.95 km²
- ◆ 人口 25万1266人
- ◆ 世帯数 10万8758世帯

〔将来都市像〕「富士山とともに輝く未来を拓くまち ふじ」

〔まちの特徴〕豊富な地下水などの富士山の恵みと、大都市に近い立地利便性を背景に発展した産業都市

〔市町村合併〕平成20年11月1日、庵原郡富士川町を編入合併



富士市長
小長井義正



〔特産品〕田子の浦しらす、茶、ミカン、梨、イチゴ、キウイフルーツ、富士ヒノキ

〔観光〕岩本山公園、大淵笹場、龍巖淵、竹採公園、富士山こどもの国、富士山しらす街道、工場夜景、岳南電車、道の駅富士川楽座、道の駅富士

〔イベント〕富士まつり、吉原祇園祭、甲子祭、毘沙門天大祭、富士山女子駅伝

極的に取り組み、2050年までの二酸化炭素排出量実質ゼロを目指すこととし、「ゼロカーボンシティ宣言」を本年4月に行いました。

こうした取り組みを推進し深化させながら、ICT技術や民間事業者の創意工夫を最大限に生かすなど、市民や企業の皆さまとパートナーシップで取り組み、地域力を結集して、輝く未来を切り拓いてまいります。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「市民がまんなか」市民力・地域力・都市力が躍動するまちのべおか」を目指して

スーパーシティ型
国家戦略特区への応募
（最先端のまちへの飛躍）

延岡市の人口は、日本の1000分の1、約12万人と標準的な規模であり、人口構成や産業構造などが国全体と比較して大きな偏りがなく、九州で2番目に広大な市域（868.02km²）には、住宅地から中山間地域、離島のほか、製造業が盛んな地域、農林業や漁業が盛んな地域といった多彩なエリアがバランスよく存在しており、まさに「日本の縮図」となっています。

これは、さまざまな実証事業を行うテストベッドに適していることを意味し、現にこれまで本市は、東京大学やベンチャー企業をはじめ、日本を代表する企業・大学・研究機関などと連携協定を結

び、さまざまな最先端の実証実験を積み重ねてきています。

加えて、本市の最大の特徴は「市民力」にあります。平成21年に地域の中核病院において医師の大量退職が発生し、医療崩壊を経験しましたが、その中で、地域医療を守るために多くの市民が行動し、1カ月で15万人以上の署名を集めるとともに、健康づくりを柱とする「地域医療を守る条例」を全国の市町村で初めて制定し、民・官・産・学の連携の下、市民運動を主体として健康づくりや介護予防などに取り組み「危機」を乗り越えました。その結果、本市では医療費と介護認定率が下がっています。

この実績は、地域課題の解決に向けた市民の協力量の高さを表すものであり、企業・大学・研究機

関が、本市を実証実験フィールドとして、データの収集・分析や実装に取り組み際には、多くの市民の協力や参加が期待できることを示しており、現に本年4月から行っている東京大学との連携調査（スマートフォンアプリにより行動データを集める実証実験）の参加者は10000人を超えています。

本市では、令和元年度以降、25〜39歳人口の転入超過が続いていますが、これを好機と捉え、地域全体のイノベーションを強力に推進することで地域再生を図るべく、現在、政府のスーパーシティ型国家戦略特別区域に応募しています。

DX拠点の整備

本年度、第三セクターの(株)まち



延岡駅西口に整備中の再開発ビルの外観

づくり延岡が整備する再開発ビルが延岡駅西口にオープンします。

ビル内には、地元中核企業の旭化成(株)をはじめ、商工会議所、金融機関、ケーブルテレビ局、IT企業などが入居するとともに、2階にITビジネスの拠点となるコワーキングスペースを整備します。

さらに、スーパーシティ構想において、このビルを「延岡イノベーションセンター」と位置付け、2階フロアを中心にこのビルを実証実

実験点とすることやビルの5G化、ビル内で収集した各種環境データの公開などを視野に入れた取り組みも検討しているところです。

市民の行動データの収集・分析による「交通DX」と「防災DX」の推進

前述のように、本市は東京大学と連携協定を締結し、東京大学が開発したスマートフォンアプリにより市民の行動データの収集・分析を行うことで、最適なバス交通ネットワークなどを構築していく考えです。

この行動データの収集・分析は、交通のみならず防災分野にも活用する考えで、自宅に居るときだけでなく、仕事中や買い物中に発生した時のための避難所整備など、防災対策の構築にも生かしていきたいと考えています。



東京大学との連携によるスマートフォンアプリを活用した行動データを集める実証実験

（仮称）延岡こども未来創造機構による「人間力」などの育成

教育においては、「学校」「地域」「家庭」の3者が、それぞれの役割を果たすことが必要であると言われていています。しかし現実には、この3者だけでは解決が難しい課題が増えていくことから、本市では、第4の存在として「（仮称）延岡こども未来創造機構」の本年度中の設立を目指して取り組んでいます。



東京学芸大学と連携したSTEAMワークショップ



イングリッシュキャンプ

現在、組織設立と並行して「組織ができた暁に行うことが望ましい事業」をスタートアップ事業として先行して実施しており、イングリッシュキャンプや東京学芸大学との連携によるSTEAMワークショップ、慶應義塾大学SFC研究所との連携による論理コミュニケーション教育、プレーパーク

事業、自然体験活動などを行い、「外遊びの達人」「人間関係づくりの達人」などを多く育てたいと考えています。これにより、高い自己肯定感や主体的に学ぶ姿勢を育むとともに、自分も他人も大切にするとづくりなど、本市ならではの「人間力」を育む教育を進めていきます。

プロフィール

- ◆ 面積 868.02km²
- ◆ 人口 11万9956人
- ◆ 世帯数 6万33世帯

〔将来都市像〕市民がまんなか、市民力・地域力・都市力が躍動するまちのべおか

〔まちの特徴〕旭化成株をはじめ製造業が集積。全国有数の漁獲高を誇る「さかなのまち」であり、多くのオリンピックメダリストを輩出するアスリートタウンでもある。

〔市町村合併〕平成18年2月20日、東臼杵郡北方町、東臼杵郡北浦町を編入



延岡市長
読谷山洋司



合併。平成19年3月31日、東臼杵郡北方町を編入合併。
〔特産品〕世界一の工業製品、イワシ（漁獲高日本一）、三蔵（焼酎・日本酒・ビールそれぞれの製造所がある）、空飛ぶ新玉ネギ
〔観光〕延岡城跡、大崩山（ユネスコエコパーク登録）、下阿蘇ビーチ（快水浴場百選の中で九州で唯一特選）、鮎やな（水質日本一の五ヶ瀬川）
〔イベント〕延岡西日本マラソン、ゴールデンゲームズinのべおか、天下第一薪能、まつりのべおか、今山大師祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。